

生活文化史

史料室だより
第3号
1982・7・21

II 特集・一年半の成長

「…………全部、みんな要ります」

「全部いわれても、置くとこもない…………」

編集 田辺 真人
発行 神戸・深江会館
電話 神戸市東灘区深江本町3-5-1-7
郵便番号 657-0781

町かど歴史博物室の五百日

田辺 真人
生活文化史料室長

神戸市の東南端の深江財産区から、旧深江の村誌

編さんを依頼されたのは、昭和五十五年の春だった。

ここは、本庄小学校庭の弥生式土器の出土や、北方の森の銅鐸などが、古くから開けた農耕社会を教えてくれる。古代土地制度・条里制も旧字名や深江駅の西の高橋川の筋に残つており、学校名などになっている本庄も、東の葦屋庄や西の山路庄とならぶ莊園の名残りである。室町時代の農民たちは、そこに生活を守るためにいくつかの村を作つた。江戸時代には近在の村々は、尼崎藩の支配を受け、幕府直轄の村もあった。

明治維新のち、市町村制の実施で、深江は西方の青木村と西青木村と共に一行政区を形成し、中世の莊園名にちなんで、本庄村と称した。その後、本庄村は阪神電車の開通などで大阪・神戸と直結され、半農半漁の農村は、阪神間の住宅地として発展し、海辺には高等商船（現商船大学）も建てられた。昭和二十五年、この本庄村は賛否の激論の末に、西から伸びてきた神戸市と合併し、御影町・住吉村、

魚崎町・本山村とともに東灘区を誕生させた。

このような長い歴史がありながら、逆に阪神大水害や第一次大戦中の空襲、たび重なる台風時の高潮によつて、この地の史料は惜しい状況である。そこで私は、財産区に対して、昔のことを教えてくれる資料の収集を逆にお願いしたのである。

役員諸氏を中心に財産区で、資料集めが始まつた矢先、深江で六代も医師を継いでこれられた深山健二家から、明治八年建築の旧邸改築に伴う民具類の一括寄贈が申し出られた。民具調査と共にしてきた渡部永子さんや、現・友の会幹事の寺岡一雄氏らと邸内に入り調査を始めて、私たちは資料の豊かさに啞然とした。そのうち、資料整理に来て下さった財産区の太田垣正雄会長や委員の志井正夫氏らと、ほこり

にまみれたあの体けいの時、雑談が始まつた。
「先生そろそろ要る物を選んでください。史料の資料になるものをもらって、あとは廢棄にしますので」
「…………」
「どのくらい要るでしょうか……」

ひょうたんから出た胸のような、この史料室の五百日の歩みを支えてくださったこれらの人々に、深謝しつつ、今後のご協力をお願いする今日、此の頃

二階を史料室にということになった。

報道関係の方々のご協力で、地域の人々の理解は

一層深まり、市・区関係者からは惜しまないご協力を賜わつた。私のよき理解者である小嶋悦郎氏や門前喜氏は財産区の志井保治氏を中心とする深江の有志の方々とともに、史料室の支えである友の会を誕生させて下さつた。本来の目的たつ史誌の編さんに関しては、財産区の岡田龍太郎氏や松尾福夫氏が推進役となり、史料室の管理は、隣接する深江会館の中尾久一氏に負うところが大きい。そして、資料も、先述の深山家ほか二十名以上の方々から、合計二千点寄せられた。見学者も千七百名。

順調すぎるこの一年半の歩みには閑室日である土、日曜日に受け付を勤めてくれる若者たち一かつて私の授業を聴いてくれた人たちのかけがえない支えも忘れてはならない。



生活の歴史のミニ博物館

長岡 晓子

らないむかしの生活のようすを自分の目で見てみたいとは思いませんか。

りします。みなさんがよく知っている阪神打出駒の近くで作っていた打出焼もあります。けれども、丁はきと半ば結びつきまして、はつて、まことに。

打出身を借りる事の力にもつては男ではないまじん
さらに、あまり電灯が使われていなかつたころ、

なければならないこともあるお医者さんはかかせないものだったようです。ちょうどは、やがて懐きはじめ、二つ、三つと、次第に大きくなる。

中電灯へと変わっていくのですが、初期の懐中電灯は箱型で今のものよりかなり大きなものでした。

のに対して、夜、家のあかりが外にもれないうようにするための防空用電灯カバーがあります。戦争中、

夜になると家からもれた光をめがけて爆弾を落した
からです。

ここにあげたものは、史料室にある物のはんの一部分です。ほかにお医者さんが治療に使う器具、ひな人形、武者人形、こいのぼり、ちく音機、レコードなど

ド、よろいかぶと、火なわじゅう、だつこくをする
千歎こき。こく物をより分けるとうみ、牛のくら、

花よめ衣しよう、むかしの新聞などがあります。そして、みなさんが史料室で歴史の勉強ができるよう二、三部の本を準備しておきます。

そしてそのお話を、みなさんの生活とはすいふんが
がつてはいませんか。みなさんがお話の中できか知



好評のミニ博物館

神戸深江会館生活文化史料室

入館者、千人超す 1周年歴史教室も計画

昨年二月、地域の人たちの手
で、神戸市東灘区深江本町にて作
られた「神戸深江会館生活文化史料室」が開
館一周年を迎えた。

開設一周年を迎えた町の「ミニ歴史博物館」(神戸・東灘区)



体で訪れる学生も多い。
また、見学者からこの一年間に開設された小学校の教科書、通
信文や郵便文、古本、貴重な五
百点が寄贈されたほか、地元の人
々から寄附されて計七百点が寄贈
され、展示物は一千点に増え
た。このため、展示室が狭くな
り、増設の話も出るほど。

この日の記念式には、約百人
が出席。田辺義謙(史跡整備委員会
議長)、田中敏之(歴史と伝記委員会
会長)、五百年前の布引(新聞
社主)らが登壇した。

深江会館で開かれた記念の会が開かれ
た。最初の入館者はこの一年間
に千人を超えて、展示物を含め平点
に寄贈された。多加賀は講
演や懇親会で、「ミニ歴史博物館」
の開館なべり出しを交わった。
深江会館は田武屋本店跡で、

五十年ぶりから住民の間で泊付の

開設へと活動が出て、深江健康

会を組織。昨年二月二十日、

区議会議員住民に要望書を提出

を呼びかけたところ、住民時代中

明かぬ和順な民風、古文など

と豊かな古風が寄せられ。

神戸市会議員で独立運動家

の田辺義謙さんなどが史跡の

収集者としていた財團法人管理

会は、これらの生活文化史の遺産

を一堂集めて展示し、住民に

見てもらおうと、深江会館北側に

地図の模型として昭和初期製の映

画「櫻花の神」を設置。史料室

を開設して見学しよう。

田辺義謙は「深江の人たちに支

えられて感謝なタメで切身に

してやつた。歴史をさうに充実

させたい。今夏は小学生を対象

に歴史教室も計画している」と話

していた。

史跡では、江戸時代初期から

明治時代かけての種類の余糞や

カルナなどの貴重な医学関係の古文

書、近世の合戦に使われたかずと

シーラフーンした。

史跡では、江戸時代初期から

明治時代かけての種類の余糞や

カルナなどの貴重な医学関係の古文

書、近世の合戦に使われたかずと

シーラフーンした。

神戸華僑歴史博物館 (館長 陳 德仁)

9時~17時 (年中無休)

大人 300円 学生 200円 (10人以上団体割引有)

国鉄元町駅 西口から南へ5分の海岸通角

〒650 神戸市中央区海岸通3丁目東南角KCCビル2階

☎ (078) 331-1277

昭和57年(1982年)3月3日

サ ン	
0	9 市場はさく女史の命を守ら すとき(近事記)、古文書、 和歌等子 正村(元治12年)
1	9 「今朝の風にまづひ心地 良き」(元治12年)、 好川(元治12年)、 好川(元治12年)、 好川(元治12年)
2	9 台風(元治12年)、「ウツスカ リ(12月)」、萬葉歌之句、 さんもく(萬葉歌之句)、 さんもく(萬葉歌之句)
3	

東灘・ミニ郷土博物館

笑顔で解説

芦屋の赤松さんと小野山さん

「よう分かる」と人気

りした優しさが漂う。歴史が好
きで、卒論は「芸術祭下の農
村舞台」。音楽や語彙も豊富
である。

この歴史科の展示物は、回復
には戻っていない今時時代の人
形、おもちゃ、食器から、20年
前の打出板の小鉢まで身近な生

物

一方の小野山さんも芦屋市立芦屋
高出身で、武庫川女子大学文
学部の教育学科4年生。おとつ
くは戻っていない今時時代の人
形、おもちゃ、食器から、20年
前の打出板の小鉢まで身近な生

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

物

史料室所蔵の陶磁器について

広岡俊二

現代は管理社会といわれ、つい目前の利益追求のため、自己を失い、組織人として行動しがちですが、日常用器として作られた焼物に目を向けることも、非常に大切なことだと考えています。

日本の焼物は、世界最古といわれる绳文式土器から出発し、約一万年を経た今日、世界に冠たる「やきものの国」として、人々から注目を集めています。

焼物は、土器、陶器、瓷器、磁器と呼ばれる。それそれぞれの特色をもつ、趣きの異なるものに大別されており、焼物ファンはもちろんのこと、見る者に種々の感動を与えてくれます。

その中でも特に技術的水準が高いとされる磁器は、焼物の王様として中國において発明され、日本では、その技術は、十五世紀末から十六世紀初めに有名な秀吉の朝鮮戦役後に、北九州肥前有田地方に伝わり、俗に言う伊万里焼として名声を博しております。

生活文化史料室には、生活文化の一端を示していく焼物群が多く展示され、玩具類とあわせて、我々の先祖の人達の生活をしのばせてくれますし、現に、使用した経験のある方には、よき思い出として見ることができます。

私は常々、焼物というものは生活の良いがするものでなくてはならないと考えております。それぞれの器（うつわ）には、そのものを制作した人々があり、その目的、用途によって、手に触れ流通してきたという歴史があります。

最近では、焼物と申しますと、茶道の発達により

二

時に必要かと思われます。



まず江戸期ですが、伊万里焼系磁器と考えられる小皿類が三種、めし碗類が、萬字碗一種を含めて四種、そば猪口が二種、色絵の向付けが二種、よろけ絵文の湯のみ一種、計十二種を数えます。

明治以降になりますと、プリント模様を施した湯のみ茶碗三種、皿（鳳凰文）一種、色絵手垣皿二種、日清・日露戦役の凱旋、退院記念酒盃が十種程、地元、本庄小学校開校記念の福利二種、等々が見られます。

その他、今回調査では不明な点も多く、報告できないものとして、燈明皿に使用されたと思われる素焼の皿が三點、湯のみ三點等があります。

又、明治末から昭和初めにかけて使用されたと考えられる、色とりどりの興味あるおもちゃ類、地元の打出焼なども、これから問題として残されています。

当史料室に展示してある陶磁器は大別して、江戸期と、明治以降に分類して考えることが出来ます。

(県立東洋高等学校教諭)

史料室友の会のあゆみと展望

友の会会長 小嶋 悅廊



見学ツアー「灘の酒蔵を歩こう」
(昭和56年4月12日 沢の鶴資料館)

昨年二月史料室開設とともに友の会が組織され、多忙な中にも会員の御協力のお陰で無事一年半を過ごす事ができましたので、これを機会に友の会のあゆみを振り返り、今後の計画をお知らせします。

五六年
二・二一（土）生活文化史料室開室の日、夕刻神戸深江会館生活文化史料室友の会発足、会員数約五〇名。

四・一二（日）第一回見学会「灘の酒蔵を歩こう」

半日ツアーや・神戸市灘区一带、沢の鶴資料館見学。

八・一五（土）、一六（日）第二回見学会「南蛮美術と摩耶山からの夜景を楽しもう」一泊旅行・摩耶山天王寺に宿泊。閉館ちかい南蛮美術館見学。

十・一七（土）第三回見学会「郷土芸能の夕べ」無形文化財サンザカ踊り。鑑賞・芦屋市ルナホール。

十二・六（日）第四回見学会「神戸の史跡を二階建てバスで！」ツアード。市内の歴史の跡、北野町や考古館を訪ね、ポートアイランド北公園から夜景。

五七年
二・二一（日）一周年記念・深江会館二階ホール。

第一部 歴史の講演と映画の集い

講演「東神戸の歴史と伝説」・田辺眞人氏。
映画「観光の神戸」・門前喜康氏。

第二部 友の会第一回総会・立食パーティ・約八〇名参加。一周年の日で、会員数約一五〇名。

五・九（日）第五回見学会「須磨の歴史散歩」。

以上のように二ヶ月間に一回の割で郷土の歴史講演会や見学会、バス旅行などを企画し、その都度好評裡に文化行事をこなしてまいりました。これらが身近な歴史にじかに接し、郷土に愛着を抱き、生活文化を大切に後世に伝えていく心が芽生え引きかけになればと願っています。また会員の方には昨年は無料で「東灘歴史散歩」「市民のグラフ」等が配本されたほか、「史料室友の会会員募集中」という広告が掲載されました。

より」(創刊号、第一号)「友の会だより」(創刊号、第四号)を通じて種々の刊行物の紹介や会員の声もお知らせしてまいりました。更に友の会員名簿も出来上がり、一層組織として充実してまいりました。

この実績を踏まえ、二年目の第一回は次のよ

うな計画を立てています。

七・二五（日）野外映画の夕べ「ボートビア81記録」

「まんが日本昔ばなし」「石とくらら」など。

八・二九（日）神戸港めぐり船の旅

十・十（日）魚をついで近世六中越えの交通路・魚屋道を歩き、有馬温泉で汗を流す会

その他、秋には芦屋ルナホールにて「郷土芸能の夕べ」、冬には田辺眞人氏による「シルクロードの旅報告会」等も随時組み入れる予定です。また、会員の方には身近な土地の歴史を語る何冊かの書籍を配本する予定にしています。

手持ちミニ博物館も新聞・テレビ等の報道もつて約一七〇〇名の来賓者があり、増築計画も具体的に話されるようになってきましたので友の会も一層会員を増やし、安定した有意義な友の会にしていきたいと思っています。今年は会員数二〇〇名を目指します。

以上のように二ヶ月間に一回の割で郷土の歴史にしておられますので、どうかお知り合の方々にお声をかけて頂きますよう、この紙面をお借りしお願い申上げます。今後ともよろしく御支援お頼い致します。

(県立舞子高等学校教諭)

友の会会員募集中

お問い合わせは史料室員まで

一年目に入った史料室

はじめまして！

赤松 豊子

谷口 美登里

史料室二年度もようやく五ヶ月近く過ぎようとしておりますが、大きな変化は特にない様です。

三月に梶正雄様より寄贈して頂いた「沖縄戦線の遺品と写真」はすでに展示しており、小学生の子供達も熱心に見ていたようです。又、姫路の森義夫様より「トウス・牛飼」などの農具、「こつた・枕箱」のような生活用具を寄贈して頂きました。芦原常夫様・中山菊治様からは、古くから深江で使われていた漁具を、大川常夫様には「二井戸の滑車とくま牛」を寄贈して頂きました。これらの品々は、いまの展示室では広さの関係で展示が困難で、増築が待たれる由縁です。

今年の初めから展示室の奥に「見学者のおと」という物を設置しております。ほとんど小学生が感想（たまに落書きもありますが……）を書いてくれています。感想として多いのは、「むずかしい」「おもちやがほしい」というものや「昔のことがわかつて勉強になった」という様なもので、だいたい似かよった感想ばかりでした。

こうしてみると、ただ単に見るだけの物ばかりを展示するのではなく、実際にどのようにして使っていたのかわかる様に、触られる展示品があれば良いなあと思うのです。その方が小学生にも今まで以上にわかつてもらえるのでは……。でもなかなかそんな展示品もないのです、何か良い智恵がございましたらお教え下さいます様お願い申し上げます。

歴史磨

新刊 只今、発売中です。

井川宏之著 田辺眞人著

著者による歴史の書評、解説、意見など、古文書、古文書研究、歴史研究、歴史小説など、歴史に関する多岐にわたる内容を収録した歴史研究書。

神戸新聞出版センター



その後の資料提供者（敬称略）

協力団体

久保川章雄・戦争資料、寺田徳雄、神戸市教育委員会

東灘区役所、古写真、岡田直政・、吉井礼子、芦屋市教育委員会

立神戸市立大学

古葉書、源正雄・戦争資料、芦原常夫、生活用具、宇都宮作・、大川

ラジオ、森田望・古銭、乳製品等、大丸百貨店

神戸市立博物館

西山優良史研究会、サンチスピ

神戸製鋼所社内報編集部、サンチスピ

神戸共同印刷

脚影高校地歴部

深江シヨーフィングセント、

神戸市立博物館

サンチスピ

ラジオ、森田望・古銭、乳製品等、大丸百貨店

神戸市立博物館

サンチスピ

神戸市立博物館

サンチスピ

神戸市立博物館

志井 正雄・、志井 保治、田辺 喜人、中尾 久一

志井 喜人、中尾 久一

志井 保治

田辺 喜人、中尾 久一

田辺 喜人、中尾 久一

志井 保治

志井 喜人、中尾 久一

志井 喜人、中尾 久一

志井 保治

赤松 豊子、天田 美司、伊藤 琴子、尾崎 泉子

赤松 豊子、天田 美司、伊藤 琴子、尾崎 泉子

赤松 豊子

伊藤 琴子、金原 達子、北島 有子

伊藤 琴子、金原 達子、北島 有子

伊藤 琴子

北島 有子、佐野 未夫、清水 久雄

北島 有子、佐野 未夫、清水 久雄

北島 有子

谷口 美登里、深山 健二

谷口 美登里、深山 健二

谷口 美登里

長岡 晚子、藤田 美望、三浦 文子

長岡 晚子、藤田 美望、三浦 文子

長岡 晚子

寺岡 一夫、友の会幹事、小畠 俊郎

寺岡 一夫、友の会幹事、小畠 俊郎

寺岡 一夫

植本 敏紀、門前 審康、志井 保治

植本 敏紀、門前 審康、志井 保治

植本 敏紀

大川 弘、佐野 未夫、清水 久雄

大川 弘、佐野 未夫、清水 久雄

大川 弘

多田 康治、田辺ゆかり

多田 康治、田辺ゆかり

多田 康治